

# 無被覆による6月どりネギ省力栽培法の確立（育苗形態、播種・定植日）

## 1 情報・成果の内容

### (1) 背景・目的

夏ネギの早期栽培は、トンネル被覆により抽苔抑制と生育促進が図られ、5月末からの出荷がされているが、価格の不安定、生産者の高齢化などにより、近年、省力化技術開発が求められている。そこで、本試験では無被覆栽培における育苗トレイの違いおよび播種・定植日が抽苔および収量に及ぼす影響について検討し、栽培法を確立したので紹介する。

### (2) 情報・成果の要約

1) 6月中下旬収穫が可能で収穫期にかけての抽苔発生リスクが低い無被覆栽培体系は以下の通り。

①448穴セルトレイ育苗（3粒/穴播種）の場合

播種：9月10日以降、定植：11月10日以降（栽植密度3,800本/a）

②200穴セルトレイ育苗（4粒/穴播種）の場合

播種：9月15日以降、定植：11月15日以降（栽植密度4,000本/a）

※何れも極晩抽性品種‘羽緑一本太’を使用

2) 施肥体系は表1の通りとし、過度な基肥および1月下旬までの追肥は行わない。

表1 無被覆栽培において推奨される施肥体系

施肥時期	肥料 <sup>1)</sup>	施肥量 (kg/10a)	備考
定植時	スーパーIBS222	30	
1週間後	燐硝安加里1号	20	
2月上旬	有機はま特1号 等	40 (上限)	これ以前の追肥はネギの肥大を早め、抽苔のリスクが高まる
3月上旬	〃	〃	
3月中～下旬	〃	〃	以降、積極的に追肥し、肥大を確保する
4月下旬	〃	〃	
5月中旬	〃	30 (上限)	

注1) スーパーIBS222(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=12:12:12)、燐硝安加里1号(15:15:12)、有機はま特1号(10:10:8)

## 2 試験成果の概要

極晩抽性品種‘羽緑一本太’を用い、2009年から2013年の5か年において、6月どりが可能な無被覆栽培体系の検討を行った（詳細は表2を参照）。

### (1) 生育

何れの調査年においても、苗の生育は448穴セルトレイ育苗と比べ200穴セルトレイ育苗が旺盛であった。また、播種日が早いほど苗の生育が優れる傾向であった。定植後の生育も同様に、播種・定植日が早いほど優れる傾向であった（データ省略）。

### (2) 抽苔と葉鞘径

448穴セルトレイ育苗の場合は9月10日以降に播種し、11月10日以降に定植することで、200穴セルトレイ育苗の場合は9月15日以降に播種し、11月15日以降に定植することで、抽苔が低く抑えられ、2012年を除く調査年において、抽苔率は何れも1%以下であった（表2）。また、6月どりネギの花芽分化期にあたる2月上旬頃の葉鞘径（地際部付近）が5～6mmを超えた場合、抽苔が増加すると推察された（表2）。

### (3) 収穫時期および上物収量

何れの調査年においても、トンネル栽培の収穫から1～2週間が経過した6月中下旬からの収穫が可能であった（表2）。ただし、トンネル栽培と比較し、2L規格の割合は低下し、L、M規格の割合が増加する傾向であった（図1）。

表2 異なる育苗形態および播種-定植日が収量および抽苔率に及ぼす影響

試験年	育苗形態 <sup>1)</sup>	播種日	定植日	収穫日	上物 <sup>2)</sup> 収量				抽苔率 (%)	2月上旬の葉鞘径 (mm)
					(t/10a)		(箱 <sup>4)</sup> /10a)			
					無被覆	トンネル <sup>3)</sup>	無被覆	トンネル		
2009	200穴	9/15	11/11	6/10	3.5	4.9 (6/10収穫)	948	1,350 (6/10)	19.3	5.9
2010	448穴	9/15	11/16	6/21	4.8	6.0 (6/14収穫)	1,326	1,630 (6/14)	0.3	4.6
	200穴	9/10	11/10	6/14	5.1		1,374		4.4	6.6
		9/19	11/20	6/28	5.0		1,402		0	4.7
2011	448穴	9/4	11/5	6/20	2.4	2.8 (6/13収穫)	677	777 (6/13)	0	積雪のため データなし
		9/9	11/10	6/13	2.4		669		0	
	200穴	9/9	11/10	6/13	2.7		737		0.2	
		9/15	11/16	6/20	3.0		843		0	
		9/21	11/19	6/20	3.6		1,002		0.2	
2012	448穴	9/5	11/4	6/12	2.7	4.6 (6/5収穫)	743	1,266 (6/5)	40.8	7.2
		9/9	11/8	6/12	3.1		869		21.6	5.3
	200穴	9/5	11/4	6/12	2.2		605		56.0	6.9
		9/9	11/8	6/12	2.8		798		41.9	6.3
2013	448穴	9/14	11/5	6/17	4.2	3.9 (6/10収穫)	1,160	1,072 (6/10)	1.8	5.1
		9/10	11/9	6/17	4.2		1,170		0.1	4.4
	200穴	9/10	11/9	6/17	4.5		1,261		2.7	5.3
		9/14	11/15	6/17	4.2		1,193		0.9	4.6

注1) 200穴セルトレイは4粒/穴播種で育苗した苗をポット間隔10cmで定植し、448穴セルトレイは3粒/穴播種で育苗した苗をポット間隔7.9cmで定植した(品種‘羽緑一本太’(トーホク種苗))

注2) 上物はM規格(M:40~75g、L4:75~100g、L:100~150g、2L:150g以上)以上を示す

注3) トンネルは何れも9月下旬播種(200穴セルトレイ、4粒/穴)-11月下旬定植(栽植密度4,000本/a)した

注4) 3kg箱数(2L:20本/箱、L:30本/箱、L4:40本/箱、M:50~80本/箱として算出)

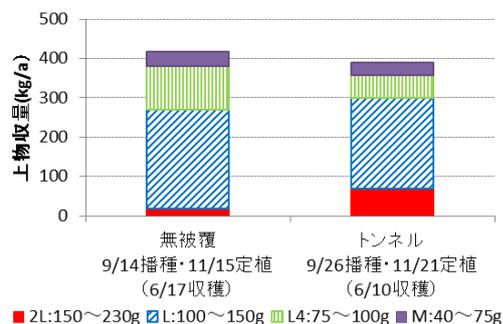


図1 規格別収量差(2013年、200穴)

### 3 利用上の留意点

- (1) 本試験は、弓浜砂丘地域(砂質土壌)における6月中下旬どりに向けた試験結果であり、他の地域(土壌)については別途検討が必要である。
- (2) 本試験は、極晩抽性品種‘羽緑一本太’を供試した試験結果であるが、気象条件等により抽苔発生の推移が異なる可能性がある。
- (3) 高温期の播種となるため、育苗管理に注意が必要である。苗の揃いが悪いと大苗定植、疎植となるため、肥大が早まり、抽苔が増加する恐れがある。
- (4) 指定日より早い播種・定植、過度な基肥および1月下旬までの追肥は、年内から年明けにかけての肥大が早まり、抽苔が増加する恐れがある。
- (5) 収穫時期が高温多湿期にあたり、品質低下するおそれがあるので適期収穫(最終止め後45日以内)に努める。

### 4 試験担当者

弓浜砂丘地分場 研究員 田村佳利・福田侑記  
分場長 中村博行